

# うきたむ

第38号

2012.2.21

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585  
FAX 0238 - 52 - 4665

野生動物にも愛されています!!



資料館の周辺で見られる生き物たち

◀カモシカは特別天然記念物に指定されています

平成三十三年十一月一日～十一月三〇日

第一九回企画展

# やまがたの古墳時代

## 最上川流域の古墳と集落

今年度の企画展は、「やまがたの古墳時代」をテーマに一〇月一日から十一月三〇日まで開催いたしました。

その後期まで全体にわたって、集落と古墳の関係やその変遷を順を追って見に行きました。

期間中には記念講演会やギャラリートークを開催し、多くの方にご来館いただきました。

今回の企画展では、やまがたの古墳時代前期か



▲企画展示の様子

閉展致しましたが、今回展示の中で、とりわけ来館者の目を引いていたのが八幡山遺跡の石製模造品のようなものでした。これは県指定文化財で、一八〇点以上の石製模造品を山形大学博物館以外で一挙に公開したのは、今回が初めてでした。

山形県内で古墳といえば、南陽市にある稲荷森古墳が有名です。全長96メートルで県内最大です。常設展示に写真パネルはあるのですが、このたびは古墳の模型（ $\frac{1}{100}$ ）をお借りすることができ、展示致しました。

やまがたでは現在のこところ、古墳時代の幕開け



▲企画展ギャラリートークの様子

は4世紀前葉頃の土師器の使用から古墳時代に入った事が分かっていきます。古墳では方墳や前方後方墳が、前方後円墳に先行して出現し、前方後円墳や円墳が大型化、やがて小規模になっていきます。

また遺跡は、当時の生業主体が水田稲作にあるため、最上川やその支流の流域である盆地や平野に分布するものがほとんどです。

集落遺跡からは古墳時代の生活の移り変わりを

見ることができず。古墳時代の竈穴式住居は前期から後期にかけて平面形が方形です。中期頃になると住居の中にカマドが付きます。カマドの使用とともに、甗（こしき）が多く使われるようになります。甗は今でいう蒸し器のような役割の土器で、「蒸す」という調理方法が定着していたことがうかがえます。

同時に坏や小型の高坏などが多量に使われるようになり、食生活の変化がよくわかります。

### 企画展 記念講演会

平成23年11月13日

十一月一三日に東北芸術工科大学の北野博司准教授をお招きして記念講演会を行いました。

最上川流域と他地域との古墳文化の相違点や、海外での民俗事例

なども交えながら講演をいただきました。



ワクワク!

### 資料館の体験学習

資料館では多くの体験学習を行っています。今年度も多くの方にご参加いただきました。一番人気の勾玉作りは、年3回開催しています。学校団体の体験学習でも数多く行っています。

#### ★勾玉作り

滑石を使用した勾玉作り体験ができます。当館の体験学習の中で圧倒的な人気があります。



一番人気!  
勾玉作り  
開催期  
5月下旬  
8月中旬  
11月3日  
(年3回)

#### ★石器作り

頁岩や黒曜石を使って石匙などの石器を作りまします。石を加工するために使用する鹿の角や、出来上がった石器の切れ味にびっくりです。



ワクワク!  
石器作り  
開催期  
5月下旬  
8月中旬  
11月3日  
(年3回)

#### ★弓矢作り

縄文時代の弓矢にはイヌガヤなどの素材が使われますが、当館の体験学習では、竹など身近にある素材を使って弓矢を作ります。自分で作った弓矢での試射も人気です。



アウトドア派!  
火起こし体験  
弓矢作り

#### ★火起こし体験

開催期(弓矢)  
5月下旬  
8月中旬  
11月3日  
(年3回)



ヒモギリ  
式の火起  
こし体験  
ができます  
。開催期  
中なら常  
時体験可  
能です。

お知らせ

### 企画展示室がリニューアルします

企画展示室に大型の展示ケースが設置されることになり、この年度末に改装致します。平成二四年度当初には、新しい展示ケースでの展示を行いますので、ぜひご来館下さい。



▲ ケース設置前の企画展示室

### 企画展 展示図録兼概説書 『やまがたの古墳時代 — 最上川流域のムラと古墳 —』



やまがたの古墳時代がよくわかる概説書

第一九回企画展示図録兼概説書『やまがたの古墳時代—最上川流域のムラと古墳—』の頒布を開始しております。当館のこれまでの企画展示図録も好評頒布中です。詳細につきましては当館までお問い合わせください。TEL 五二一-二五八五

# 資料館周辺の史跡・遺跡

## 置賜遺跡めぐり(番外)

### オススメ散策コース (自家用車移動編)

所要時間 約 80 分 ( ) は見学時間の目安

- 当館 ↓ 約 15 分
- 伊達家の墓 (約 10 分)
- ↓ 約 3 分
- 日向洞窟 (約 10 分)
- ↓
- ↓ 約 16 分
- 石庭公園 (約 10 分)
- ↓ 約 3 分
- 清水前古墳 (約 10 分)
- ↓ (約 4 分)
- 当館

移動時間  
は目安です

### オススメ散策コース (徒歩移動編)

所要時間 約 70 分 ( ) は見学時間の目安

- 当館 ↓ 約 5 分
- 町郷土資料館 (40 分)
- ↓ 約 3 分
- 安久津八幡神社 (約 20 分)
- ↓
- ↓ 約 5 分
- 歴史公園内  
竪穴式住居 (約 10 分)
- ↓ 約 1 分
- 安久津 2 号墳 (約 10 分)
- ↓ 約 1 分
- 当館



### 我が館の展示品 (27)

下槇遺跡 (河北町)  
子持勾玉・古墳時代

常設展示、古墳時代のコーナーに子持勾玉があります。

子持勾玉は勾玉の一種で、大きな勾玉の周りに小さな勾玉型の突起がたぐさん付いているのが特徴です。

瑪瑙や翡翠製の装身具の要素の強い勾玉は、古墳から出土することが多いですが、子持勾玉は古墳から出土することはほとんどなく、集落跡から見つかります。

この出土状況の違いと特異な形態から、呪術的なことに使われていたのではないかと考えられています。

展示している子持勾玉は下槇遺跡から出土したものです。上下が欠損



◀ 子持勾玉  
残存部分の高さは約 6 cm

していますが、残存部分の状態から、少なくとも 6 つの突起 (小形勾玉) があることが分かります。滑石製で、この遺跡からは他に琴柱形石製品も出土しています。

古墳時代、下槇遺跡に住んだ人々は、子持勾玉を使ってどんなまじないをやっていたのか気になるところです。